

京都大学 嘉門雅史

表題の「テクテキスタイル・アジア」は、欧州で開催されている「テクテキスタイル」に続くアジア太平洋地域の産業資材用繊維マーケットのプラットフォームとして誕生したものであり、(社)大阪国際見本市委員会とメッセ・フランクフルト GmbH との共同開催である。主体は土木用・建築用繊維を始め、航空・車両用、衛生・医療用からスポーツ・レジャー用まできわめて広範囲に用いられている産業資材用繊維製の見本市であるが、併催のシンポジウムでは欧米アジアの 8 カ国から 14 人の招待講演があり、各国における産業資材用繊維製品の市場動向の報告や用途ごとの材料特性ならびに環境問題への適用などバラエティーに富んだ話題提供があったとともに、6 専門分野でフォーラムが開催された。なおシンポジウムの主テーマは「地球にやさしいテクテキスタイル」というものであった。ここでは土木用繊維材料に関する部分に限定して報告する。

まず招待講演の部では、嘉門が「Function and Behavior of Geotextile (ジオテキスタイルの機能と挙動)」と題して約 50 分間の技術講演を行った。ジオテキスタイルの欧米とわが国での適用分野の相違と利用状況を示し、ジオテキスタイルの機能分類と補強を中心にした挙動とについて取りまとめるとともに、最近のジオテキスタイルを取り巻く新しい動きにも触れたものである。

フォーラムでは、座長を嘉門が務め、以下の 3 名が話題提供を行った。

(1) 鉄道における永久構造物としての補強盛土工法 (3 R 工法)

金沢 芳信 (西日本旅客鉄道)

(2) 道路構造物へのジオテキスタイルの利用

巻内 勝彦 (日本大学)

(3) 土木工学におけるジオテキスタイルのフィルター機能とジオメンブレンの適用

西形 達明 (関西大学)

金沢氏は鉄道分野で適用が図られている面状・線状の補強材と剛な壁面を持つ 3 R 工法の概要説明と、片福連絡線と奈良線とにおける施工事例を紹介した。巻内氏は舗装へのジオテキスタイルの適用は多方面に用途があるにも係わらず、わが国での普及率が低いことの理由を説明し、今後の発展の可能性とそのために克服すべき問題点を明らかにした。西形氏は透水性ジオテキスタイルのフィルター基準について解説し、目詰まり現象がジオテキスタイル中ではなくて土中で発生しているということを示し、不透水性ジオメンブレンの廃棄物処分場への適用性の概略を示した。

このフォーラムはユーザー側とメーカー側との対話を中心にするという目的から、上記の最近のテーマがトピックスとして選ばれたために、活発なフロア討論が行われた。ジオテキスタイル材料の耐久性の問題・設計と基準の関係・新素材の適用性の問題などきわめて広範な議論があった。なお国際フォーラムであるから英語での発表を予定していたが、外国からの参加者が当日皆無であったことから、通訳者を用意していたにも係わらず日本語で終始したことは少々残念であった。